

# 「生涯を社会福祉向上」

ルで行われ、関係者約270人が出席し、広瀬氏の栄誉をたたえた。

広瀬氏は1962年にヒロバックスを創業。その数年後に社員が交通事故で死亡したのを契機

庁枠での17年春の叙勲・旭日双光章受章へとつながった。

広瀬氏は交通安全運動活動のほか、障がい者支援にも尽力を注いできた。71年に自宅の敷地



祝賀会で謝辞を述べる広瀬氏

第26回ぐんま情報化フォーラム「ICTを活用した次世代医療環境の実現」(一般社団法人群馬県情報サービス産業協会主催)が10月25日、前橋アルサで行われ、約180人が参加した。同協会は情報通信産業に携わる専門企業が結束し、県内の情報通信産業の技術の高度化、健全な発展、そして業界の地位向上を目指し、地域社会・産業の情報化の基盤整備に寄与することを目的に、91年に設立。同フォーラムは国の情報化月間に合わせ、毎年実施されている。

## ぐんま情報化フォー

シ社長で同協会長の松下弘明氏は「昨年はIoTをテーマにした講演を行い好評を博した。最近のネットカフェはワイクライフバランスに注目が集まっている。働き方改革を社ビルは夜はしてしまいがのネットカフェいっぱいといある。制度だ

## センター相談員 生命保険

一般財団法人生命保険協会群馬県協会(伊藤尚志会長)は10月24日、17年度「消費行政・生命保険意見交換会」をホテルラシーネ新前橋で開催し、行政消費生活担当や地域の消費生活センター相談員、生保関係者など約60人が参加した。伊藤会長は開会に当たり「消費者の声が届いている皆さんの忌憚(きたない)ない意見を伺い、今後の参考にさせていただきたい」と述べた。また、県消費生活課の福田芳美課長は「60歳以上の高齢者からの相談が年間約6800件あり、相談全体の4割を占めており、前年比に比べて8%増えている」と話した。高齢社会の課題に

介護事業を手掛けるウエルビーイング(高崎市井野町376、佐藤健司社長)は10月29日、設立15周年を記念した「ウエルビーイング」を開催し、利用者とその家族、地域住民などとの交流を図った。

スタッフはハロウィンにちなんだ仮装を行い、焼きそばや豚汁、焼きまんじゅうなどの屋台も並んだ。また、襲雷舞踊団が同施設を訪れ、パフォーマンスを披露。利用者を楽しませた。襲雷舞踊団は昨年行われた第13回たかさき雷舞

フェスティバルでグラプリを受賞した実力の祭りやイベントに出演。5年前からは宮城県などの被災地に赴き、現地の人に希望を与えられるよう踊りと交流を続けている。そんな彼らの活動を

知った佐藤社長が、その趣旨に共感し、自らスポンサーを名乗り出て、今年から資金援助を行っている。襲雷舞踊団の矢嶋真代表は「長年活動を続けているが、こんなうれいことは初めてで驚いている。お礼の意味を込め、施設名の入った大きな団旗を作り、それでパフォーマンスも行っている。現在チームには約35人のメンバーがいるが、踊りだけではなく人間的成長につながるようなことをしたい。今日の活動もそうした意味合いがある」と話す。



施設内で迫力あるパフォーマンスを見せるメンバー

## 襲雷舞踊団がパフォーマンス ウェルビーイング15周年フェア

あるチーム。20年の歴史を誇り、年間50カ所

(山田誠二)

## マタニティ整体が参加 募金の百貨店県内7者目

社会福祉法人群馬県共同募金会は12日、同会が実施する「募金百貨店プ

